Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

NPO法人まちの食農教育
2023年度 評価基準づくり
報告書

まちの食農教育
Community Supported School Lunch

目次

1. 評価基準（ルーブリック）作成概要
2. まちの食農教育が目指すルーブリックとは
3. 教育実践と培われる力
4. “まち”のルーブリック作成の試み
5. まちの食農教育作成ルーブリック 初版（2024年3月31日付）
6. 今後のルーブリック活用
7. 補足：ルーブリック作成にあたって考慮したポイント

1. 評価基準 作成概要

■ 目的

- 学校の先生方をはじめ、子どもたちの学びのために協働する方々と、学習目標と　目指すスキルや態度、学びのプロセスについて認識共有を図ること
  - ✔「なにができるようになるのか？」と「どのくらいできているのか？」
- 子どもたちの学び状況を把握することで、学びの質を高めながら教育実践を重ね、子どもたちが自律的な学習者になるよう支援すること
- 食農教育の可能性や教育効果を客観的に捉え、神山町外にも活動を拡げていくこと

■ 作成物

- 小学生向けルーブリック
- 中高生向けルーブリック
- “まち”のルーブリック

2. まちの食農教育が目指す“ルーブリック”とは

「学校食」での学びのステップ

一人ひとりが**「まちにある資源を学びの素材」**にして自らを動機づけ、**学び上手**になるためのロードマップ

学校食で描く
まちの学びの地図

2. まちの食農教育が目指す“ルーブリック”とは

「学校食」による学びのステップ図

学校食とは

農体験・食育・給食に一貫性をもたせたプログラム

まちにある資源の活用＆身体感覚の伴う継続的な学びの積み重ねにより、培われる思考力や態度を段階的な達成基準として示していく

3. 教育実践と培われる力

神領小学校3年生　在来大豆プロジェクト（NPO版“すがたをかえる大豆”）を例に

自分たちで種から育て収穫した在来大豆を使い、地域の専門家に指導してもらいながら木綿豆腐づくりに挑戦。つくった豆腐をみんなで味わい、次年度にバトンをつなぐ。育てる、つくる、食べる、つなぐ　の一連のつながりを体験して学ぶ

自己肯定感

「大成功！2年生にも教えたい！」
身体感覚を伴う実感を
自信につなげていく

フラットに観察する力

大豆の姿が変わっていく様子を
直感的に言葉にしていく

慣行や価値観を問う力

様々なフェーズで、なんでだろう？どうして？と疑問を言葉にしながら、探究していく

多様性を尊重する態度

食べ物を自然からの恵みとして捉えることができ、自然環境を大切にしようとする

つながりを理解する力
（体系的に社会を見渡す力）

生物が食材に変わっていくことバトンをつないでいくことの
大切さを理解する

他者と協働していく力

地域で活躍するひとたちと交流する
役割分担して協力し合う
自分の役割を担う
みんなでつくったものをみんなで味わう

©NPO法人まちの食農教育

4. “まち”のルーブリック作成の試み

「学校食」で培う力＝「まちを育てる学力」と捉えると見えてくる“地域ぐるみ”の教育の可能性

神山町の創生戦略と足並みを揃えて進めてきたこれまでの教育実践での振り返りと気づき、課題から、教育がまち全体を支えていく、そしてまち全体で教育を支えていく道筋を作っていけるのではないか？

- ✔ これまでの7年間の学校教育の現場で、**農体験が当たり前に位置づけられるようになる文化**を醸成
- ✔ 「**このまちで高校生活を送りたい**」という意志を持った生徒を増やしていく（神山校）
- ✔ **地域課題を実践的に扱う**取組みを重ねて、多様な人々と関わり合いながら学んでいく
- ✔ 地域の自然の中で、子ども達が発見的に遊び合える時間をつくる
- ✔ 自然の魅力と怖さ、昔のこと、遊びの楽しさを伝える
- ✔ 子どもたちが**「しごと」を通して町と繋がる機会**を持つ
- ✔ 計画的に、体系的に、森林資源を管理し、**景観づくりを自分ごとに**する（森林ビジョン）
- ✔ 地域に根差した食や農の営みを知り、**仲間と手を動かし得られる感覚的な体験が、地域への愛着形成に大きな影響**を与える
- ✔ 農の営みや資源の循環を知るだけでなく、自ら考えやってみて体感することにより、「食」に関する知識と力を習得し、子どもたちの生きる力と**まちの風景をみる感性**を育む
- ✔ 子どもの学びが、保護者や周囲の大人に影響を与える

参考：「まちを将来世代につなぐプロジェクト」第2期計画書

4. まちのルーブリック作成の試み

～学びの素材となるまちの資源～

生き生きと働く
大人たち

山、森、川のことを
よく知る人たち

まちに長く暮らす人たち、移
住してきた人たち

「学校/学びの場」がまんなかにあるまち

山、森、川、
生き物たち

⟷

木材、食材、水

まちの産業
農業、林業ーサービス業

住民の安心をつくる
仕事

堆肥化

©NPO法人まちの食農教育

4. “まち”のルーブリック作成の試み

「学校食」で培う力の「まちを育てる学力」への変換と他地域への適応についての一考察

- 体系的に社会を見渡す力
（つながりを大切にする態度）
- 多様性を尊重する態度
- 慣行や価値観を問う力
- 他者と協調する力
- ものごとを多面的にみる力
- 未来を予測できる力

✔ 地域（まち）のなかの様々なレベル感でものごとの循環やつながりを体感理解し、そのなかに存在する自分自身を俯瞰して捉えることができる

✔ 地域（まち）特有の自然資源と人が織り成す景観を美しいと感じる豊かな感受性を育んでいる

✔ 地域（まち）に根差しながら視野広く活躍するユニークな実践者(大人)たちとの交流から、既存の価値観に囚われない多様な生き方を肯定する⇒自分の将来像、生き方を問う力を養う

✔ 地域（まち）の人たちとの教え合い・学び合いを尊びながら自分の役割も見つけていく

✔ 地域（まち）の永続的な豊かさを願い、将来世代につなげていくための地域課題を見つけ、その解決策を自ら提案、実現していく

5. 小学生向けルーブリック初版（2024/03/31ver.)

「小学生」編　対象年月が長い「ロードマップ」的位置づけのため、独自性、ユニークさを大切にしたオリジナルなルーブリックとして各ステップをネーミング

LEVEL	**1	2	3	4
	Feel	Feel & Try	Feel & Try & Think	Feel & Try & Think & Connect
知識 食環境にまつわる段階的なインプットからの習得	（健康なからだをつくる食べ方について、栄養に関する基本的な知識とあわせて理解している）			
（個別） 自己を肯定する力	身体感覚を伴った活動に、積極的に取り組むことができる	身体感覚を伴った活動を通じて、「自分でできた！」ことを実感できる	「自分でできた！」という体験を重ねることで、自分の考えや取組みに自信を持ち、大切にしようとする	新たなものごとに対して、自信を持って取り組むことができる
（個別） フラットに観察する力	先入観を持たず、ありのままの姿を捉えることができる	ありのままの姿を捉えた観察対象から、様々な情報を収集することができる	収集した情報を整理しながら、自分が持っている表現方法で描写したり、説明したりすることができる	収集した情報を整理しながら、観察対象を取り巻くものごとと関連付けて、あるいは比較して、自分なりの表現方法で描写したり、説明したりすることができる
（共通・小学生向け） 多様性を大切にする態度	（土に触れることを通じて）自然のなかに身を置く感覚を楽しむことができる	（育てる～つくる～食べる～つなぐに）関わった農作物を自分と同じ「生き物」として捉えることができる	多様な生き物が育まれる自然環境を大切にしたいと意識するようになる	（育てる～つくる～食べる～つなぐ という営みとの関わりから）自分自身の行動とのつながりを自覚し、自然環境や生態系を大切にした行動をとるようになる
（共通・小学生向け） つながりを理解する力	（育てる～つくる～食べる～つなぐの営み）それぞれの活動を、連続した流れとして意識を向けることができる	それぞれの活動を連続した流れのなかで体験することで、ものごとが関わり合っていることを感覚的に捉えることができる	それぞれの活動を連続した流れのなかで体験することで、何がどのようにつながっているのか、自分なりに想像を膨らませることができる	（育てる～つくる～食べる～つなぐ という営みとの関わりから）ものごとの背景にある多様な要素のつながりに視野を広げることができる
（共通） 仲間と協働する力	学校内外の人たち（同級生や他学年・他校の児童、周囲の大人など）とともに活動する機会を持っている	活動をともにする人たちと協力し合う場に自分の役割を持って積極的に参加することができる	協力し合う人たちの意見に耳を傾けて、一緒に考え、共感し、意見交換ができる	（1人ではなく）協力し合って形となる成果を持つことで、協働する楽しさと大切さを実感値を伴って理解する
（*共通/段階的な評価） 慣行や価値観を問う力 *問いを持つ力を重視	（育てる～つくる～食べる～つなぐの）体験の場で、知らないことや知りたいことに意識を向けることができる	知りたいこと、疑問に感じたことを言葉に表現することができる	知りたいこと、疑問に感じたことを自分で調べたり、周囲に訊ねたり、共有することができる	調べたことや知ったことからさらに、深堀りして新たな問いをもつことができる

**基本的なルーブリックでは、評価軸である力や態度が「ない」ところを最初のレベルに設定しますが、本ルーブリックではNPOが関わることでの教育効果から段階を設計しています。

©NPO法人まちの食農教育

5. 中高生向けルーブリック初版（2024/03/31ver.）

「中高生」編　　対象年月が長い「ロードマップ」的位置づけのため、独自性、ユニークさを大切にしたオリジナルなルーブリックとして各ステップをネーミング

LEVEL	**1 Starter	2 Challenger	3 Master	4 Changemaker
知識 食環境にまつわる段階的なインプットからの習得	（食材や調理の基礎知識を習得しているとともに、一人ひとりの食べ方や食習慣が、人間の健康だけでなく地球環境の健康にも影響することを理解している）			
（個別） メタ認知力 （俯瞰して自分を見つめる・自らを変えられる）	（学校食/食農教育を通じて）自分の学びや活動を俯瞰して振り返ることができる	自分の学びや活動を俯瞰して振り返り、自分が何を分かり・わかっていないのか、自分の好奇心・無関心に気づくことができる	気づきを客観的に捉え、次の学びのための選択、行動に応用していこうとする	振り返りと気づきをもとに、社会のなかでの自分を認識し、未来の自分や社会のための行動につなげていくことができる
（個別） コミュニケーション力	（学校食/食農教育を通じて）自他の考えや気づきを尊重することの大切さを認識している	自他の考えや気づきを尊重しながら、伝え合い、周囲の人や友達に発信している	自他の考えや気づきを尊重しながら、周囲の人や友達に伝えたいことを、根拠を示し筋道立てて論理的に伝えられる	自他の考えや気づきを尊重しながら、伝えたいことを根拠を示し筋道立てて論理的に示し、地域や社会に共感を促す発信をしている
（共通・中高生向け） 多様性を尊重する態度	（学校食/食農教育を通じて）持続可能な社会を創るために生き物や食文化が多様にあることが重要だと認識している	生き物や食文化の多様性を育む気候風土や自然環境への関心を高め、その風土や環境を大切にしたいという気持ちを持っている	生き物や食文化の多様性を育む気候風土や自然環境を大切にするために必要な知識を求め、未来につないでいく担い手としての自覚を持っている	多様な生き物や食文化を未来につないでいく担い手として行動している
（共通・中高生向け） 体系的に社会を見渡す力	（学校食/食農教育を通じて）体感理解したことや考えたことを俯瞰して言語化できる	体感理解したことや考えたことを、暮らすまちの人達の役割や産業と関連付けて捉えることができる	体感理解したことや考えたことを、学校で学ぶ教科で得られた知識と関連付けて捉えることができる	体感理解したことや考えたことを、様々な事象と関連付けて捉えることで視野を拡げ、横断的に社会を見渡すことができる
（共通） 他者と協働する力	（学校食/食農教育を通じて）自分の役割を見つけ、役割分担しながら、協働していく楽しさと大切さを実感値を伴って理解している	協働していく楽しさと大切さを礎に、自分の役割を果たしながら、協力し合う人たちのやる気を高めることができる	必要な協力や役割を他者に求めながら、協働することで一人では成し得ない成果を生み出していこうとする	率先して他者に協力を仰ぎ、協働して成果を生み出していこうとする態度を、自ら設定した問題の解決に向けて役立てることができる
（*共通/段階的な評価） 慣行や価値観を問う力 *問題を設定する力を重視	（学校食/食農教育を通じて）知りたいこと、疑問に感じたことを自分で調べたり、周囲に訊ねたり、共有することができる	自分が調べたことと照らし合わせながら、社会の慣行（当たり前になっていること）を疑い、自分なりの問いを持つことができる	持った問いを体験や知識と紐づけて、自分で解けるサイズ感の問題に設定できる	自ら設定した問題を地域や社会に提起し、その解決に向けた一歩を踏み出すことができる

**基本的なルーブリックでは、評価軸である力や態度が「ない」ところを最初のレベルに設定しますが、本ルーブリックではNPOが関わることでの教育効果から段階を設計しています。

©NPO法人まちの食農教育

5. “まち”のルーブリック初版（2024/03/31ver.）

「まち」編　　対象年月が長い「ロードマップ」的位置づけのため、独自性、ユニークさを大切にしたオリジナルなルーブリックとして各ステップをネーミング

LEVEL	**1 Get Started	2 Get Involved	3 Respect "WE"	4 Craft the Landscape
知識 食環境にまつわる段階的なインプットからの習得	（まちの暮らしを支える（第一次）産業について基本的な知識を得ている）			
（共通） 多様性を尊重する態度	土に触れ、森や川に入り、生き物の個性を知り、まちの自然の恵みを味わう体験にワクワクしている	多様な個性が輝くまちの景観を守りつなぐ人たちと交流し、主体的に関わっていく喜びを実感している	自然資源と人が織り成す景観を美しいと感じる豊かな感受性を育んでいる	自分自身が、自然資源と人が織り成す景観の一部として存在することを尊ぶ
（共通） 体系的に社会を見渡す力（つながりを理解する）	まち全体を学びのフィールドにして、五感を開いてまちの人や自然に触れ、自分なりの視点からまちの風景を見つめている	自分が見つめているまちの風景をまちの歴史や気候風土、産業と関連付けて捉えることができる	自分が見つめているまちの風景をまちの歴史や気候風土、産業と関連付けて捉えることができ、それらの関係性について自分なりの考えを持っている	自分が見つめているまちの風景が様々なものごとの循環やつながりによって成り立っていることを理解し、そのなかに存在する自分自身を俯瞰して捉えることができる
（共通） 他者と協働する力	まち全体を学びのフィールドにして、まちの人たちと協力し合う活動に自らの役割を見つけて取り組むことができる	学校を超えた学びの場で、まちの人たちと教え合い、学び合う体験を尊びながら積み重ねている（学校内外での連携で実現する）	多様な人たちとの教え合い・学び合いから、人とのつながりの温かさや大切さを実感し、協働して実現できることの可能性に気づいている	活動するフィールドの境界を越えて、多様な人たちとつながり協働していくことで、まちをより良くしていこうとする
（*共通/地域目線で） 慣行や価値観を問う力 *地域課題への着目を重視	まちの暮らしを支える自然環境や産業・営みに興味を持っている	興味を起点に、より良くしていきたいと願うまちのものごとに着目し、自分ごととして探究している	探究しているものごとについて、まち内外の人たちに共有し、共感や協力を得ながら、より良くしていくためのアイデアを考えている	考えたアイデアを実現するために動き、あらたな気づきを得て、改善策を発想して次の行動につなげようとしている
（個別） ものごとを多面的にみる力	自然と向き合い、土に触れ、食べ物を育てていくなかで、様々な視点からものごとを捉える体験を積み重ねている	視野広く活躍するユニークな実践者たちとの交流により、既存の価値観に囚われない多様な生き方を肯定している	まち全体を学びのフィールドにして得た身体感覚を伴う体験や多様な実践者との交流から、ものごとに対して柔軟な選択肢を持ち、多面的な見方で向き合えるようになる	柔軟な選択肢を持ち、多面的な見方でものごとに向き合える力を、まちをより良くしていく視点で活用していくことができる
（個別） 未来を予測する力	まち全体を学びのフィールドにすることにより、暮らすまちの特色や魅力について自分なりの考えと眼差しを携えている	まちの人たちとの豊かに開かれた関係性のなかで学び続け、まちの風景を捉える眼差しを磨いている	まちの人たちや自然資源を思い浮かべながら、見続けたい、あるいは見てみたいまちの風景を想像することができる	見続けたい、あるいは見てみたいまちの風景をつくるために、今できることを考え行動している
（個別） （地域）社会参画力	まちの暮らしを支える仕組みや産業に自らが関わる機会を持っている	まちの暮らしを支える仕組みや産業に関わる経験を通じて、まちへの愛着を深め、よりよい地域社会を築いていきたいという強い気持ちを持っている	よりよい地域社会とはなにかを自分なりに考え、そのための具体的な道筋を計画、提案することで、主体的にまちに働きかけようとしている	自らの計画を実践していくことで、まちを将来世代にも引き継いでいくことに貢献している

**基本的なルーブリックでは、評価軸である力や態度が「ない」ところを最初のレベルに設定しますが、本ルーブリックではNPOが関わることでの教育効果から段階を設計しています。

©NPO法人まちの食農教育

6. 今後のルーブリック活用

次年度（2024）より、地道に着手していくこと

- 神山町内の学校と連携して進める食農教育をアップデート（発展）していく
  - ✔ 学びのねらいやプロセスを含めた指導案をルーブリックと照らし合わせて作成、学校の先生方と「学校食」の取組みをからめた授業を設計する
  - ✔ 学びの素材となるまちの資源のさらなる可視化、明確化を図る
- ルーブリックをもとに評価を実施しながら、子どもたちが「学び上手」になるための適切な評価方法を模索していく
  - ✔ 子どもたちの言葉や絵などの描写による発表や振り返りも、定性的な評価材料として丁寧に扱う
  - ✔ 子ども達が気づきを得ていく過程は丁寧に記録することが望ましく、その内容を鑑みながら、　ルーブリックの改訂に活かしていく
  - ✔ 活動内容や学年を考慮したアンケートによる評価を検討する
- 食農教育に力を入れる、あるいは関心を示す教育機関/団体/地域と交流機会を持つ
  - ✔ 優れた教育機会として給食に取り組む地域や食育の充実化を目指す学校等に本ルーブリックを紹介し、発展的な議論や将来的な連携につなげていく一歩を踏む
- 定期的に見直しながら、学び（指導）と評価の一体化を目指していく

7. 補足：ルーブリック作成にあたり考慮したポイント①新学習指導要領

授業改善ポイントと教科横断的要素の評価項目への反映

国語
・言葉を豊かにしていく機会の提供（表現力の育成）
・論理的に考えを整理する機会の提供

算数/数学
・農体験や調理体験を通じた数値的データの実践的活用
・数値的インパクトによる事象理解

社会（地理）
・学校食を通じた地理的特性の理解促進
・地域社会の一員としての市民性を育む

理科（生物）
・自然環境との繋がりの理解促進
・自然の事物に対する問題発見力/解決力を育む機会の提供

社会（歴史）
・地域の過去−現在−未来を時間軸で見渡す機会提供
・よりよい社会を考える思考力の育成

生活科（家庭）
・主体性を引き出す体験機会の提供（やってみたい！→やってみる）
・身体感覚を伴った知識習得の促進

生活科（図画工作）/美術
・観察力、表現力の育成
・規定にとらわれない新しい視点を得る機会の提供

©NPO法人まちの食農教育

7. 補足：ルーブリック作成にあたり考慮したポイント②教育現場への期待

評価する側が注力していきたいこと

学びをつくる力

- 教員自身が課題に没入し、熱意を持って取り組んでいる
  - ✔ **持続可能な社会の実現に貢献する可能性**を信じて、使命感をもって取り組む
- 教科を越えて、同僚と互いの主体的な　意思のもとに連帯している
  - ✔ **教科横断型のカリキュラム**と同僚性を構築し、**教員間で活発な情報共有や提供**を行う
  - ✔ 熱量を共に上げていく
- 偶発性や変化を前向きに捉え、探究的な学習を促す教育をデザインしている
  - ✔ 偶発的な事態が発生したり、予期せぬ方向へ展開したりすることに対して寛容な姿勢が大切
  - ✔ トップダウンではなく**教員自身が教育を生み出せる環境**が前提

学びとつながる力

- 多様な背景を持つステークホルダー・コミュニティの人々とつながろうとしている
  - ✔ 学校が国内、国外を問わずどんどん**外部の人々とつながること**が大切
- 企業やNPOなどの**校外組織と連携**して取組みを社会および世界に広げている
  - ✔ 学年が上がるにつれて、**自分たちで考えた計画や実践を外部に発信できるか**という点も大切になってくる
  - ✔ 外部への発信は、活動へのフィードバックを得ることで、あらたなつながりのきっかけになる

学び続ける力

- ESDの視点で指導内容や方法の工夫、改善に努めている
  - ✔ 従来の指導内容をESDの視点で捉え直し、**新しいアイディアを積極的に取り入れる**ことが大切
- 教師として、児童・生徒から/とともに学ぼうとしている
  - ✔ 子ども達から学ぶ、**子どもたちとともに学ぶことを楽しめる**教員であることが大切

引用：ACCU　学校教員によるESDの評価づくり（教員評価フレームワーク一部抜粋）

7. 補足：ルーブリック作成にあたり考慮したポイント③食に関する指導の手引き

文科省 食に関する指導の手引きより

学習指導要領の改訂に伴い、育んでいくことが具体的に示された食に関わる資質と能力

知識・技能

様々な健康課題、自然災害や事件・事故等の危険性、健康・安全で　安心な社会づくりの意義を理解し、健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。

思考力・判断力・表現力等

自らの健康や食、安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、 行動するために必要な力を身に付けていること。

学びに向かう力・人間性等

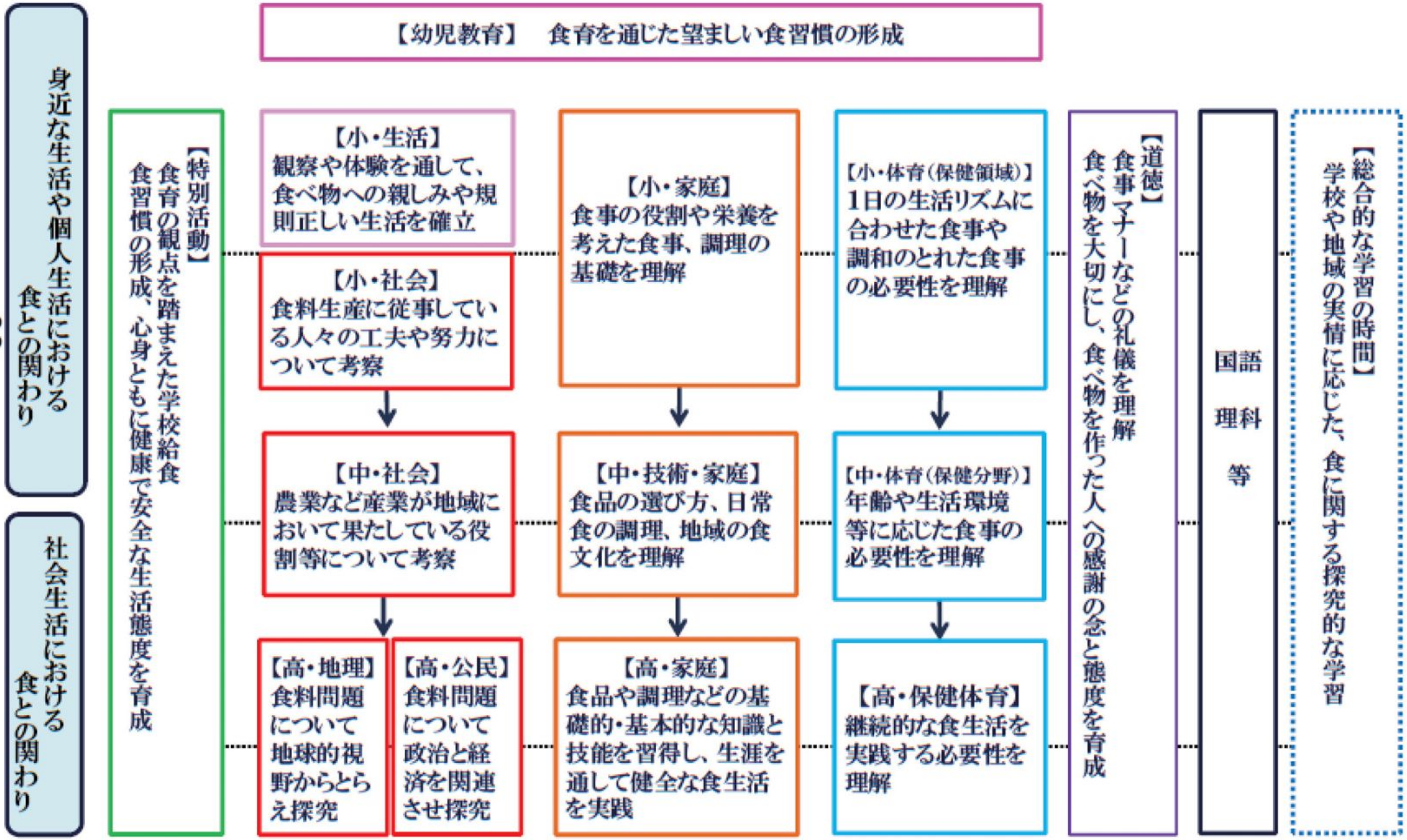
健康や食、安全に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に、自他の健康で安全な生活や健全な食生活を実現しようとしたり、健康・安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。

引用：文部科学省　食に関する指導の手引き　第二次改訂版

©NPO法人まちの食農教育

7. 補足：ルーブリック作成にあたり考慮したポイント③食に関する指導の手引き

学習指導要領の改訂に伴い、提示された教科横断的に食を扱うカリキュラムマネジメントの重要性



引用：文部科学省　食に関する指導の手引き　第二次改訂版